おお大勝利

平成 31 年度／令和元年度　山東サッカー部報第 9 号（8 月 21 日）

サッカー部保護者の皆様、ＯＢ・ＯＧの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

7 月～8 月中旬までの活動　総報告

顧問今野の怠慢により、7 月 3 日の前号発行以来、部報発行がありませんでした。前号発行から現在まで、（1）7 月のリーグ戦 3 試合(7 月 6 日羽黒 B 戦、7 月 15 日山形中央 B 戦、7 月 20 日酒田西戦)、（2）宮城県牡鹿半島の復興支援奉仕活動(7 月 21 日)、（3）月山合宿(8 月 1 日～3 日)、（4）山形東サッカーフェスティバル／OB 戦(8 月 3 日)、（5）秋田遠征(8 月 8 日～10 日)とイベントがありました。まとめて報告いたします。

（1）まずは、リーグ戦 3 試合。7 月 6 日（土）は Y2A 第 8 節羽黒 B 戦。**この節から新チーム**にてスタート。新チームとは言え、**3 年のオサこと岡澤**は選手権まで残ってやりたいということで、3 年生が一人混ざった形の新チーム。昨年は引退せず残った 3 年生がいませんでしたが、3 年前の**ユート**（山東 67 回卒　東北大学 2 年)、2 年前の**カンタ**（山東 68 回卒　山形大学 2 年）に続く残留組。**サッカーを最後までやり切るとともに、ぜひ大学進学も決めてもらいたい！**　さて、試合は 3 年生 1 名、2 年生 7 名、1 年生 3 名のフレッシュなスタメンで開始[1]。羽黒 B には前期開幕戦で何とか勝利していますが、後期は厳しい試合が予想される。開始 10 分右からのクロスを羽黒 DF が対応を誤り、オウンゴール献上。**山東新チーム、まさかの先制！！**　あの～、記憶が正しければ、新チーム初戦は毎年！先制しているような気が。何か最初だけ勢いあるんでしょうかね～[2]。とはいえ、内容が伴っているわけではない。徐々に押し込まれ、前半のうちにあっさり逆転。当たり前ですが、そう簡単にはいきません。後半は前半以上に一方的な展開。ボールポゼッションを高める羽黒に手も足も出ない。というか、事は簡単、**ワンツーに全く付いていかない／いけないため、自ら混乱している**。ボールを奪えなくとも、最低限守らなければならないことを実行しさえすればあそこまで遊ばれることはない。後半 3 失点で、結局 1－5 の逆転負け。実力通りの結果に、「ここからがスタート」と自分に言い聞かせるしかない。

7 月 15 日（月）は Y2A 第 9 節山形中央 B 戦。前期の戦いは内容では非常に手ごたえを感じるもので、主義を通すとばかりに A と同様低い位置からビルドアップを試みる山形中央 B に対して前線から「はめにいく」[3]山東のディフェンスが機能した。結果こそ 1－1 引き分けに終わっ

---

[1] 正直、遠い過去過ぎて、後藤報道局長管理の HP を確認しながらこの部報作成しています・・・。この日は県トレセンに選ばれている **1 年 GK コーセー**が FP で初出場していますね。そう、**山東では今後、彼に二刀流させます**（彼の希望により）ので、ご注目下さい。大谷なんて真っ青な Two Ways　を実行しますよ～。

[2] そういえば日大山形の J コーチがちょっと前に言ってました。「山東の新チームとは初戦ではやりたくない、なんか最初勢いあるから。」それを聞いたとき、「新チームを恐れる日大じゃないでしょ」「勢いなんてまやかしでしょ」と思ったものですが、でも何でそんな感想を持つのか、首を傾げざるを得なかった。顧問もよくわかりませんが、ともかく、毎年先制している気がします（この日のように後に大量失点で逆転負けするのがほとんどですが)。

[3] はめる／はめにいく／はめていくとは、高い位置（相手ゴールに近い位置）からマンマークしていくこと。相手と同数で守るため、後方は手薄になる（後方で余らせて守ることがしづらい)。

たが、山東からすれば引き分けは非常にもったいなく感じた、そんな戦いだった。「後期も同じ作戦で臨むのは自滅を招く、それゆえ、引いて守って・・・」というのも一つのやり方と思いますが、**私見では前線からボールを追うディフェンスのできないチームが引いて守っても、結局守り切れない**。これまで何度も格上相手に引くだけ引いて敗れてきました。引くということは、自ゴール近くに相手をおびき寄せるということであり、ゴール前の守備／球際の守備が甘ければそれだけ危険ということ。ここは守備の意識を高めるためにも／将来を考えるためにも、前から守備に行くこれまで通りの戦いを貫きました。**1 年コーセーはこの日は GK で先発**。申し遅れましたが、この日も、**清野総監督（後援会名誉会長）、工藤先輩、後藤報道局長のいつものお三方**いらっしゃる。プラスして、**後援会現会長にして山形県サッカー協会副会長の岸先輩**もいらっしゃった。**保護者は、保護者 OBOG も含め、多数お越しになっている**。試合が始まると、前期の戦い同様、山東の「守備から入る戦い」が機能している。もちろん、山東のメンバーが前期と比べ違うので前期のように相手の攻撃を封じることはできていませんが、まったくもって組織的ではなかった前節羽黒 B 戦の守備と比較すると、天と地ほど違って良い。相手の一番自由にしてはいけない中盤の選手をルーズにしてしまい、左足一閃、ミドルシュートで**失点してしまう**も、山東の攻撃も悪くない。特にこの日、**トップの 2 年「山東のヒマラヤ山脈」ことハク**の絡んだボールを、2 シャドー[4]の **3 年オサと 2 年「走るかどうかは試合してみないとわからない」ヒラマサ**が力強くボールを運んでくれるため、山東も敵陣深く攻めることができている。3 人の連携がもっとあればいいのだが、スキルの問題によりパスワークは正直期待できない。ヒラマサのシュートだったかを相手 GK がハクの前にはじいて、「ハク押し込むだけ」のシーンは惜しかった。ハク、ボールを押さえることができず上にふかしてしまい、得点できませんでしたが、期待の持てた前半。後半は開始早々、**2 年「新チームになって気合の空回りは気を付けたい」ユッキーことユキタカ**が FK を直接決め、同点に追いつく。相手の問題もありましたが、ユッキーが「味方が触っても触らなくともゴールマウスに入る」ような怪しいボールを蹴ったからの得点ではあった。その後も、一進一退ながら、相手の左利きの中盤のマエストロが仕事をするたび山東のピンチとなる。「ノブがいればな～」は言ってはならない。その後、多くの選手が交代でピッチに立つ中で連携に乱れがあり、終盤 2 失点で 1－3 の敗戦となる。**正直、負けはしましたが、前節と比べ「へ～、こういう戦いもできるんだ」と新チームの可能性に気付かされた試合**でした。

7 月 20 日（土）は Y2A 第 10 節酒田西戦。前期の戦いではスコアレスのドロー。この時点で勝ち点 12 でリーグ 5 位の山東はまだ昇格も降格もどちらも可能性があるが[5]、（リーグ 6 位以上の）残留を考えたとき、勝ち点 5 でリーグ 7 位の酒西には絶対に勝っておきたい。もちろん相手も同じ事情。山東には勝っておきたい。その両者の対決は、酒田市の北港緑地公園（天然芝）。これまで行くたびも様々なドラマが繰り広げられた会場。来るたび思い出されるのが、**今年就任の小池コーチ**（山東第 59 回卒）が 1 年の時の選手権で山商と対決した試合[6]。疑惑のレッドカードと疑惑の 2 枚目のイエローカードで山東が 9 人となり、小池コーチのミドルシュートで先制したのに逆転負けを喫した試合だった。**主将のナオヤ**[7]の優しいパスを右 SB シンペー／小池コーチ

---

[4] ウイングほど外に張らない、ハーフ／MF／ボランチほど後方ではない、ちょうど「トップ下」が左右に 2 枚あるようなポジションのこと。

[5] 1 位と 2 位が羽黒 B と山形中央 B という Y1 に A のあるチームのため、A が昇格できないと B にも昇格権が発生しないため、その 2 チームを除くチームで最上位になっておくと一応可能性はある（Y2B との絡みも発生するのでリーグ 1 位じゃないチームの昇格は実は複雑ですが）。

[6] 私が赴任した 1 年目、14 年前の話です。

[7] 山東第 58 回卒。山東 64 回卒のコテッチャンの兄。

が右アウトサイドキックで巻きながらゴールファーサイドに突き刺した衝撃の先制点[8]、判定で心乱された中での被逆転劇だったこと、9 人でも攻めた／攻めることができた試合だったことなど、思い出深い。さて、相手の酒西は山東と同様、前期の対決から 3 年生がほとんど引退し別チームになっている。さあ、新チーム同士の対決どうなるか。この試合、まず試合の入りからつたないプレーが多かった。**相手にボールを持たせると粘れてそこそこ内容のある（ディフェンシブな戦術を用いたチームとしての）戦いができるが、自分たちのボール保持が長くなるとたちどころに馬脚を露し、ボールをひっかけて相手の速攻を許す山東**。そんな悪い流れの中、相手に決定的なチャンスを作られてしまうも、なぜか失点せず。「助かった～」と思ったのもつかの間、相手 FK を直接決められ、やはり**先制を許す**。「この流れだと仕方ないか～」と諦めざるを得ない。しかし、その後セットプレーから、ハクでもなく、**コーダイ**でもなく、**ヤグチ**でもなく、**3 年オサが技ありのヘディングシュートを決め同点**にする。この前半のうちの同点弾が大きかった。後半は、より山東が攻勢に出て、前半勢いのあった相手の攻撃の時間を減らすことができた。前半は酒西のゲーム、後半は山東のゲームといった様相の試合、具合が悪く途中出場のユッキーのドリブルからのシュートがパチンコ玉のようにあちこち飛んだと思ったら、それが現在怪我で 1 か月もピッチから遠ざかっている **2 年「へ～あの頃はプレーしてたんだ」ナカノ**にわたり、ナカノが落ち着いて決めてくれて逆転。追加点の機会が多くあったが決めきれず、結局をそのまま 2－1 で試合終了。**残留に向けた天王山に勝利**し、安どした酒田遠征となりました。

（2）7 月 21 日（日）は**今年で 8 回目を迎える宮城県石巻市での復興支援奉仕活動**。2012 年から「国境なき奉仕団」チーム山形の**遠藤さん（遠藤物産）、岡崎さん（タカミヤグループ）**にお世話になりながら、毎年続けている[9]。お二人から比べれば夏の 1 回だけの活動であり、ささやかなものだが、「**続けることに価値がある**」との信念のもと今回で 8 回目を迎えた。当初は被災した住宅街のドブさらい（2012 年）や仮設住宅の草むしり（2013 年）など運動部の活動にうってつけの肉体労働だったが、徐々に復興が進んだのと、公共スペースでの肉体労働は賃金の発生する仕事となりそういう領域に奉仕活動として入っていくと仕事を奪うことになりかねなくなったため、2014 年から牡鹿半島での漁業支援に取り組んできた。いずれにしても、震災直後だけの、注目されている時だけの活動にしてはならないという思いで続けてきた。また、部員には、「**自分の人生修行のため働かせてもらいに行く**」という姿勢を強調しても来ました。「相手のため」という思いが間違うと、「してやってるのに」という腐った気持ちが芽生えかねない。あくまで「自分のために」「自分の成長のために」活動しているという姿勢が重要かと。もちろん「自分のため」の活動が「相手のため／被災者のため」にならないのであれば問題外。**もちろん相手の希望あっての奉仕活動ではあるが、究極的には自分のための活動でなければ結局は「恩を売る」意識が排除できない**（と私は思う）。

ちなみに、こういう文章は毎年ここに書いているのですが、8 年目も迎えるということで、過去のエピソードを今年初めて紹介したい。2012 年山東サッカー部の初めての奉仕活動として石巻市の海沿いの住宅街のドブさらいをしているとき、地元の小学生高学年らしき男子数名が自転車に乗ってドブ付近を行き来していました。その子らはドブで服も汚れ選手によっては顔まで

---

[8] 隣で試合をしていた社会人がそのシュートを観てどよめいていたのを今でも覚えています。

[9] 今年は毎年お世話になっていた岡崎さんが地元の方の不幸が突然あったということで急遽欠席されましたが、代役のドライバーの方をご紹介くださいました。ちなみにこの活動では、「国境なき奉仕団」に（移動費の）資金援助と被災地との調整をしていただき、山東サッカー部は労働力のみ提供する形で、活動させてもらっています。

ドブで汚れている我々に対して、「わざわざ何してんだろう、この人たち」とでも言いたげな冷ややかな目を向けていました（私にはそう見えた）。そのとき、狭量な私は「何へらへらしてんだ、お前らのためにやってるんだろう」とムッとしてしまいましたが、すぐ「いや、あの子らも我々が想像もつかない悲劇の中にいるかもしれない」「地元の人が『こんなことやってられない』と思うことを我々はまさにやりに来たんじゃないのか」と思い直しました。そして自分の中に、「やってやってる」という高飛車な気持ちがあることにも気づかされました。それ以降（2013 年の活動以降）、「自分のために働かせてもらいに行く」という姿勢を強調しています。

さて、今年も漁業支援ということで、二つの漁業従事者のところに分かれて活動してきました。二つのグループとも同じく、**ホタテ貝の貝刺し作業**。ホタテ貝とゴムを交互に針金に刺していって針金の真ん中で折ったとき左右に 16 枚ずつのホタテ貝が刺さっているようなセットを作る作業。**牡蠣の養殖に使用するセットの作成**。今年私が行った（選手の）グループには、しゃべりはするが作業に集中できない選手や黙々とやるが頓珍漢な間違いをしている選手、飽きっぽくて後半はほぼ作業しているフリをしていた選手など、人数の割に働きが良かったとは言えなかったですが、それでも**終わった後自分たちの仕事の成果を見ると壮観という言葉がふさわしい量をこなしており、漁師の方からも大変喜んで頂きました**。受け入れてくださった牡鹿半島の漁業者の皆さん、調整・引率してくださった「国境なき奉仕団」の皆さん、今年も貴重な経験をさせて頂きありがとうございました。

（3）8 月 1 日～3 日は恒例の月山合宿。山東サッカー部恒例の蔵王合宿[10]が定宿の火事によって月山に場所を移して、早 10 年ほど経つでしょうか。112 号線から姥沢駐車場までの約 10 ㎞を走破する「月山登山」は一年を通して選手たちの話題となっている。それくらい重要なイベント。初日は 112 号線沿いの弓張平の登り口でバスを降り、そこから弓張平公園まで 3 キロの登り道をまずランニング。そして恒例の 20 分のメディシンボールリレー（ラン）と、坂道ダッシュ＆レンジで、初日午前の部終了。午後には**鶴岡から伊藤トレーナーとサポート役 2 名の計 3 名がいらっしゃり、スポーツテスト**。といっても、長距離走などもあり、まさに「心身共に試される」。宿泊は、近年毎年お世話になっている「えびすや旅館」さん。もちろん宿と練習場の間はランニング。二日目は、まず早朝 4：30 起床で 5：00 から朝練。朝練だけサッカーボールを使ってトレーニング。フィジカルトレーニング続きのなかサッカーに意欲的に取り組む、という状態を期待していましたが、疲れの中ややだれ気味。**そういう苦しい状態でこそ声を掛け合いみんなで乗り切る姿勢が必要なのだが、今年の 1・2 年、まだまだその姿勢が弱い**。そして朝食後、午前に月山登山。1 時間を切る選手は今年も出ませんでしたが、**1 位の 2 年ワタルと 2 位の 1 年チアゴことショウタは 1 時間 5 分切り**。その他、**2 年カザマ、コヤ、ウエマツが 1 時間 10 分切り**。例年と比べると、1 時間 10 分を超える選手が多すぎる。なかには、ケガしているわけでもないのに、より速いタイムを目指さず完走を目指しただけの低い意識の選手も見られ、残念極まりなかった。**正直、私が顧問になって以来、同じトレーニングをやっていても、山東が強かった時代と比べると取り組み方に雲泥の差がある**。本人はやっているつもりかもしれないが、甘さに気づいていない。**声がけはしているが、最終的には本人が気づくしかない**。午後は、これまでの疲労を考慮し、

---

[10] というか、かなり以前は、合宿は学校で行われていました。**山東第 33 回卒の代が 1 年生の時、学校での夏合宿で不幸にも 1 年生の丸子さんが熱中症で倒れ亡くなるという痛ましい事故が起きてしまいました**。その合宿を機に、少しでも涼しいところで合宿を行わせようとの後援会のはからいで、蔵王合宿が始まったと言われています。よって 35 回卒の前顧問の晃先生も 43 回卒の私今野も蔵王合宿で鍛えられたのです。**蔵王での合宿は 30 年弱続いたことになります**。ちなみに、**サッカー部には部所有のテントがありますが、それは丸子さんのご遺族から寄贈して頂いたものです**。

体幹トレーニングに切り替える。ただし、GK だけはボールを使ってトレーニング。体幹トレーニングでは**小池コーチ（山東第 59 回卒）**が厳しく指導してくれたし、GK トレーニングでは**高橋コーチ（46 回卒）**が強烈なシュートを放ちながら専門的な指導をしてくれた。三日目は朝練のみを行い、昼食まで頂いてから下山いたしました。2 泊 3 日お世話になったえびすや旅館の皆さん、**初日・三日目と荷物の送迎に車を出してくださった保護者の皆様、連日差し入れをしてくださった保護者の皆様**、高橋コーチ・小池コーチ・伊藤トレーナー、そして、睡眠時間を削って深夜まで洗濯してくれた **2 年マネージャーのユーミ**、本当にありがとうございました。

（4）8 月 3 日（土）合宿最終日の午後は、後援会主催の山東サッカーフェスティバル／OB 戦がありました。現役生からすれば、合宿が終わってすぐの OB 戦で、疲労困憊かもしれないが、私からすれば「ここまでが合宿」。今年は、**山東第 35 回～36 回卒の「二冠会」の方々**が例年以上に参加して下さり、光栄な限り。私も**レジェンドの「キンタツさん」**と初めてとプレーできてうれしかったです。私は昨年までは、「絶対プレーしないぞ」と心に決めるものの、レジェンドの方々が溌剌プレーする中、若輩の私が「年なんで」などと弱気を言ってられず、しぶしぶプレーしておりましたが、今年は子供と一緒に千歳山に登るなどの調整を経て、最初からプレーする気でおりました。すると、レジェンド世代と私の世代（42 回～44 回卒）で結構集まり、それに加えて小池コーチの世代（59 回～60 回）を合わせて 2 チーム作れたことから、20 代後半、40 代、50 代混合チーム同士で試合を組めた。**やはり OB 同士だと、阿吽の呼吸というか、攻め急がない分、現役生とやるよりサッカーが楽しい**。そして、この OB 同士の試合で、素晴らしい得点があった！　**36 回卒の土田先輩**が右からそろりそろりとカットイン、そして怪しく前方にスルーパス。そのパスを受けて抜け出した **35 回卒の齋藤先輩**が豪快にファーサイドにシュート！　**鮮やかにネットを揺らす美しい攻撃でした**。その後も、やり足りない OB が多く、現役生そっちのけでプレーする OB の逞しさがありました。残念だったのは、大学生で参加したのが**カンタ（68 回卒）**だけだったこと[11]。**開催は 8 月第一土曜日と決まっているだけに、大学生諸君はぜひ日程を合わせてもらいたい**。プレーのあとは、山東の中庭（洋風庭園）にて**缶を片手に左門のもつ煮**をいただく。サッカーのあとにしょっぱい味付けのもつ煮がうまい。豆腐で味を薄めるのもまた好し。プレーのあとに左門のもつ煮を OBOG と現役生みんなで食べるこのイベントの発案者の一人、**後援会前副会長の奥山さん**も久しぶりに顔を出してくださったし、**二冠会の時の監督であり私の時の部長だった正浩先生**もいらっしゃり、今年のフェスティバルは OB 席が華やか。その場にて監督の言葉で述べましたが、**山東サッカー部 OB は永遠のサッカー小僧である点**、また、**山東サッカー部は巣立つ場であり還ってくる場でもある点**の思いを深くいたしました。後援会の皆様、本当にありがとうございました。

（5）8 月 8 日～10 日は秋田のペナルティカップに初参加しました。例年ここでは新潟県の苗場の大会に参加していましたが、今年は縁あって秋田の大会に参加することとしました。苗場の大会は、それこそ 10 回以上参加しており、宿から会場までの山道／獣道を懐かしむ OBOG も多いかと思われる。その点、名残惜しい気持ちはありますが、今年心機一転。初日は明桜高校の人工芝ピッチが会場。残念ながら、この初戦開始 5 分ほどで **1 年「新エンターテナー襲名」オニコシ**が倒れ際左手首を誤った形で地につけ、左手首を骨折してしまう。大事を取って救急搬送。同行

---

[11] のちに東北大サッカー部に所属するユート（67 回卒）、ベジ（68 回卒）、ババ（69 回卒）はもつ煮だけ食べに来ましたが。

した小池コーチが救急車に同乗し対応してくださったので助かりました[12]。その日、山形からお父様が迎えに来て、オニコシは秋田を離れましたが、悔しかったことでしょう。**オニコシが強くなってピッチに戻ってくることを待ってるぞ！**　さて、初戦仙台 FC 戦、山東としてはだらしない試合だったと言うしかない。うだる暑さで、相手の動きも本調子ではない（とお見受けした）中、相手以上にダレたプレーの数々。やはり、**苦しい状況でも声かけあってコンスタントに力を発揮する選手たちに成れていない**。正直、受験勉強したいにもかかわらず押して秋田遠征に参加した（はずの）3 年オサに申し訳ない試合内容でした。B 戦も隣で[13]させてもらいましたが、**上手い下手以前に、ピッチで自分を表現しようとしている選手が少ないのが気がかり**。確かに相手の方が技量が上でしたが、声かけあって体を張って粘るという姿勢に欠ける。個々人は一生懸命やっている（と思っている）のでしょうが、指導の経験からすると、「ピッチ上で喜怒哀楽を出せない選手は伸びない」。プレーが淡白なのとプレーが冷静なのとは根本的に異なるのです。A は 2 試合目、ギリギリの人数で臨んでいる苦しい状況のチームに何とか勝つには勝ったし、引いて守る相手にビルドアップの経験を積むことができた点では収穫があった。二日目は前日の 1 勝が功を奏し最下位トーナメントを免れ 4 位トーナメントに回る。会場は新屋運動場、そこで**蔵王の進学校大会にも参加してくれている福島の安積高校**と秋田の新屋高校と対戦。安積高校とは前半 A、後半 B で臨み、引き分けでしたが、進学校大会では秋田に連れてこなかった 3 年生も参加するようなので、蔵王では高いレベルの対戦相手との戦いでこちらのレベルも引き上げてもらいたい。**新屋高校は県総体秋田予選で準優勝し東北大会にも参加したチーム。故障者は抜けているものの現状のフルメンバーで臨んでくれて、とてもトレーニング効果が高かった**。そしてこの試合、格下のチームを相手に新屋が緩い試合の入りをしたことにつけいって山東が先制したもんだから、試合が面白くなった。本気を出した新屋にその後、5 点ぶち込まれ、結局大敗するも、山東にとって攻守にわたり見どころがあった。**B も、試合では結果は出なかったものの、初日と比べ、一年生を含め自分たちで問題を解決しようと努力する芽生えは感じられた**（そして実際得点もした）。最終日は、大会を離れ、**秋田委員長の高橋先生**から紹介して頂いた秋田工業と八橋の人工芝で（光栄にも！）試合をさせてもらう。到着後、「ここは東北大会で来たところですよね」とは小池コーチの言葉。そう、小池コーチ 3 年の時は県総体で 3 位に入り、秋田の東北選手権に出場したのでした[14]。この日の練習試合、**オサが気を吐いて得点し結果を出しました**が、チームとしての収穫としては、**横幅を使った攻撃がこのシステムの利点であることに選手が気付き始めた点**に収穫を感じました。ともかくも、この遠征では、守備の甘さを再認識するとともに、ビルドアップの経験も積むことができ、ボールを保持しながら攻める重要性を再認識することができました。試合後は同じ会場で練習する機会にも恵まれ、充実した遠征でした。会場校の皆さん、対戦相手の皆さん、そして、大会に誘ってくれて日程面でも多大な配慮をして頂いた秋田の高橋委員長、宿泊先のこまち温泉の方々、ありがとうございました。また、山形より応援に駆け付けた保護者の皆様より、多くの差し入れを頂戴しました。重ねて御礼申し上げます。

さあ、早くも今週末、リーグ戦が再開します。相手は同じく新チームとなった山形南。公式戦での新チーム初対戦ではどうなるか。応援よろしくお願いします。

8 月 24 日（土）Y2A 第 11 節　山形南戦　11:30 キックオフ　＠山形中央 G

---

[12] やはり大学生 OB ではなく、大人がもう一人いると助かります。
[13] 明桜高校は人工芝ピッチを 2 面お持ちなんです・・・。
[14] 八橋の競技場で岩手 1 位の不来方高校と対戦し、惜しくも初戦敗退。